

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 2 年 4 月号

編 集 武田 隆久  
発 行 人〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15  
一般社団法人 日本病院会 教育部教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <https://jha-e.jp/> ※4月1日より変更受付時間 10:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日 毎月 1 日

## 他 山 之 石

住友 正幸

[徳島県立三好病院](#) 院長、救急救命センター  
腫瘍学分類コース小委員会 委員長

いま、世界中が新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) による感染症 (COVID-19) に苦しめられている。3月20日のWHO発表によれば、毎日2万人に及ぶ人々が検査陽性となり、千人以上が亡くなっている。日本の各施設も大変な苦勞をされていると思うが、イタリアの惨状には心痛めるばかりである。

世界はパンデミックに移行し、封じ込め(containment)から軽減策(mitigation)に軸が移ったが、その移行判断の是非、行動制限や休校の問題、経済効果など、色々な論評が日々の検査陽性者/死亡者の数字と共にネットを覆っている。救急の合間に幾つかのページを覗くが、多くは批判に終始しているかにみえる。そんな中、北海道大学生の「No More Corona プロジェクト」は自分たちに出来ることが提言されていて、久しぶりの「明かり」に思えた。

横浜港に入港したダイヤモンド・プリンセス号についても沢山の論評や批判が載せられているが、たまたま、当のプリンセス号でミッションに当たってきた友人の話聞く機会を得た。ミッションに当たられた方々は、自らの危険と日々の批判や意見を知りながらも、限られたマンパワーとリソースを駆使して総ての乗員の下船を果たした。災害訓練などでしばしば病院をあける彼だが、私にはとても誇らしく思えた。

論評をにおいて論文に目を向けると、あれほどの惨状にあった中国だが、渦中にあった2020年1月だけでも50編以上の論文が有名雑誌に掲載されており、内容も臨床から疫学、ゲノム・分子解析、治療応用へと幅広い。そして、これらの論文が本邦を含めた多くの国のガイドライン策定に際して元データになっている。医療再編や大学改革でスリム化した日本の医療・科学も、そんな底力を持っていることを願っている。

それでは診療情報管理において、今回の「災害」は何を語るだろうか。平時より正確なデータは現場の努力で生まれる。それを保持できること、多方面から吟味できることの大切さではないか。そして、吟味のための吟味に終わってはいけな。事の成功・不成功は明日の事象として、今日すべきことは、明日のために何を良くできるか、データを情報 (information) に変換して発信してゆくことではないか。

末尾ですが、今回の災禍に苦しむ総ての患者さんと関係の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

